

# JIFAS NEWS

No.191 2019.6.30



Japan International Food and Aquaculture Society

〒302-0131

茨城県守谷市ひがし野 2-1-1001

TEL &amp; FAX : 0297-44-4487

E-mail : jifas@sage.ocn.ne.jp

http://www.jifas.net

## JIFASアワビ陸上養殖プロジェクトチーム始動

### 高品質・低コストな豪州のアワビ養殖技術、年間120トン出荷可能

JIFASは2018年9月に豪州のアワビ陸上養殖の第一人者とアワビを低コストで、高い成長率が実現できる画期的な養殖システムに関する技術移転の契約書に調印した。

このシステムは豪州ではアワビ陸上養殖のスタンダードになっている。日本よりも1・5倍以上高い人件費と電気代でも、世界で最も低コスト・高品質アワビを養殖し、国の主要な輸出水産物の一つに育てている。

JIFASはこの豪州の養殖技術に着目し、現地視

察、アワビの第一人者と交渉を続け、本人の合意を得て契約に至った。これを受けて日本への本システム技術の移行と指導のもと、1年間のパイロット養殖を実施し、養殖技術を習得後、商用ベース年間120トン出荷できる大規模な養殖場の建築を目指す。年間120トンの規模感には下記写真にある同規模の豪州養殖場全景をみれば実感できる。

この目標に向かって、技術導入・習得のため、本年5月「JIFASアワビ陸上養殖プロジェクトチーム」が結成された。

## 南氷洋に面した 海域にあるアワビ養殖場

日本のアワビ生産量34年前5337トンであったが、2017年には1135トンまで減少し、未だ毎年減少を続けている。一方韓国から輸入の養殖アワビは2016年1535トンもあり、日本の総数量よりも多いのが現実である。日本の養殖アワビのマーケットに占める割合はわずかであり、食の安全・安心、安定したアワビの供給を考えると、厳しい状況と言える。

折しも5月30日、厚生労働省は韓国水産物に対する検疫強化を発表し、生殖用冷蔵貝類とウニに対しては腹痛や発熱を誘発する病原性微生物および腸炎ビブリオ菌に対する検査量を10%から20%に引き上げる増やす予定であると発表している。日本のアワビ総生産量の急激な減少、輸入品の増大を考えると、安全で安心なアワビを日本マーケットに供給することは急務であるとJIFASは考える。



かけ流し方式での陸上養殖が成功するか否かの最重要な要素は「新鮮で安定した水温の確保」である。

モデルになる豪州養殖場は周囲に民家や工場はなく、民間施設からの汚水の流入もない。近くに大きな川がなく、大雨の時に海水取水口周辺の塩分濃度にも影響を与えない理想的な立地である。

この養殖場で養殖されたアワビは主として9 cm まで2年半で育て、全量アジア圏に輸出され、数年先まで注文が入っている程、価格と品質が優れている。